



# いなほ

稲積神社社報

第61号

令和6年 大祭号



祝祭日には国旗を掲げましょう



令和5年例大祭 正ノ木祭 神輿出御風景

# 正ノ木祭 献木祭齋行にあたり 献木祭の歴史

## 甲府商工会議所

本年も正ノ木祭が盛大に開催されますこと、心よりお慶び申し上げます。

また、稲積神社社報「いなほ」に寄稿させていただく機会を賜り、稲積神社及び崇敬会をはじめとした関係者の皆様に心より感謝申し上げます。さて、我々甲府商工会議所では、稲積神社境内への植樹を行う「献木祭」を毎年の恒例行事としております。本年も、正ノ木祭の開催に合わせ、挙行させて頂く運びとなりました。

この献木祭は、当所議員をはじめ甲府商店街連盟や甲府市観光協会など、地域の工商业者・関係者が一堂に会し、共に商工業の振興・発展を祈念する貴重な機会となっております。今回は本紙面をお借りしまして、その歴史をご説

明させて頂きます。

皆様ご高承のとおり稲積神社の御祭神、宇迦之御魂大神と大宮能売大神は、商売繁盛や衣・食・住を司る生活の守護神です。当所もまた、人々の生活と密接に関わる地域産業界の代表としてその御神徳に肖らんと、古くより稲積神社とのご縁を築いてきたよう

です。確認できる範囲で、稲積神



昭和33年当所に残る最も古い献木祭当時の名称は「山梨県商工会議所」(先々代根津博吉、右端)

社や当時の新聞などに残る最も古い献木祭の記録は、昭和八年（一九三三年）です。同年五月三日、山梨民友新聞の正ノ木祭典開催を報じる記事に、以下のような記述があります。「〴〵それに本年は商工会議所と各町発展会等が主催となつて献木祭を挙行することとなつたので、常日の賑わいは又予想されているが二日夜と三日夜の二夜にわたつて同公園内で仕掛け花火を押し上げるというから、いやがうえにも人気を煽り人出は多数であらうと、同神社の社務所では昨日から御札やその他の準備で目を廻している。」正ノ

木祭とは異なる時期に献木祭を開催していた可能性も考えられますが、少なくとも、現在のようにならざるに正ノ木祭に合わせたのは、この年からではないかと考えられます。

御祭神の一柱、宇迦之御魂大神は、養蚕を司る農耕神と

しても知られます。明治〴〵昭和戦前期の山梨県は、殖産興業政策によって養蚕・製糸業が著しく発展しました。昭和三年当時の甲府商工会議所定款には、機械製糸製造業、座繰製糸製造業、繭糸売買業などが、「重要商工業の種目」の第一に列記されるなど、本県は製糸業を産業の軸としておりました。そのような側面もあつてなのかは定かではありませんが、当時の会議所では稲積神社奉讃会を組織し、歴代の会頭が会長に就任しております。奉賛会では、甲府市の繁栄をもたらそうと特売市などを挙行していたそうです。

さて、昭和八年当時の山梨

民友新聞は、献木祭の挙行を大々的に報じています。これによると、昭和八年の正ノ木稲荷例祭は、五月二日の夜から、四日まで、三日間にわた

り盛大に開催されました。献木祭が行われる五月三日、同紙の一面には「今日盛大に献



昭和30年中頃の献木祭(先代根津成雄宮司)

木祭執行」との見出しが躍ります。記事には、市内で廉価市が行われるほか、奉賛会が中心となり仕掛け花火などを多数打ち上げ、四輪車へ載せた献木を中心に行列を為して市内を練り歩く、とあります。行列は、当所の献木車に加え各中小学校から十一本の献木、ほら貝、太鼓、囃子、木遣や芸妓等からなり、さながらパレードの様相であつたのでしようが、不運にも雨天により翌四日へ順延されたようです。日延べして四日の天候は「晴天絶好のお祭気分」だっ

たとあります。献木車を囲む行列は、午前九時三十分には商工会議所（一）―当時は柳町（現中央四丁目）―を出発後、相生町、泉町、百石町、新青沼町、橘町、紅梅町、春日町、常葉町、桜町、相生町、柳町、山田町、金手町、八日町魚町、桶屋町、若松町、緑町、太田町を通り、稲積神社到着は午後四時。当時の細田武雄会頭（第十銀行頭取）が甲府市長へ目録を贈呈したのち、植樹の行事を行ったようです。

かくして行われた献木祭は大変な賑わいだったようで、翌五日の山梨民友新聞には「木遣音頭も勇ましく献木祭盛大に挙行」「郡部からも養蚕農家等の人があり一段の賑やかさを呈した」と、献木祭と正ノ木稲荷祭典の賑わいを報じています。余談ですが、祭典開催中の三日間、同紙には「身動きの取れぬほどの雑踏を当てこみ、東京方面より数名のスリが入り込んだため、甲府署が嚴重な警戒網を張って犯罪防止に努めた」という記事や、「正ノ木祭典に参るため、初めて甲府市街へ出てきた老女が余りの人混みに公園内で迷った」旨の記事が掲載されており、当時の賑わいを伝えています。

このように始まった献木祭ですが、戦時中の一時期は中断を余儀なくされました。甲府市は、太平洋戦争末期の大空襲によって甚大な被害を受けました。戦災の状況を今に伝える記録を見ますと、当時、全市約二六、〇〇〇戸あつたうち、空襲の被害を受けた世帯は一八、〇〇〇戸に上ると言われています。その当時の山田新太郎会頭（山田商事代表）のもとに献木祭が舉行されることとなったのです。市内の七十四％が消失した、文字通りの焼け野原から復興を誓った先人達の想いは、我々の思う以上に力強く、深い熱意を秘めていたに違いありません。以来、当所の献木祭は約八十年間にわたり継続して行われて参りました。

なお、昭和二十四年のみ、当所から継承された形で甲府芸子組合と甲府消防組合が主体となって実施しました。当時は、戦後商工業の復興、焼失した神社の再建、甲府市の繁栄を祈願したそうです。戦後の復興から高度経済成長期を経て、甲府市が見事に復興・発展を遂げると、献木祭は再び商工業の振興・発展に主眼が置かれるようになりました。特にバブル経済の崩壊以後は景気回復祈願という意味合いが強くなっています。令和二年度からは新型コロナウイルスの早期収束、逸早い経済活動正常化の願いも込められています。献木祭に込められた願いは時代ごと異なりますが、いつの時代も一貫して、木々の成長に「甲府市の商工業の振興・発展」を重ね、植樹を行ってまいりました。

現代の献木祭、特に平成以後を振り返りますと、平成八年までは「檜（ヒノキ）」、平成八年から十年間は「梅」、平成十八年からの八年間は「柘植（ツゲ）」、平成二十六年から「本榊（ホンサカキ）」、令和二―三年の二年間は「招霊木（オガタマノキ）」、令和四年からは再び本榊を献木して参りました。令和六年度も、引き続き本榊を植樹する予定です。植樹場所の稲荷社付近や金刀比羅神社周辺には、もともと立派な本榊が植えられていた、と聞き及んでおります。ここを生命力あふれる緑の木々で満たすべく、数年かけて植樹を行っていく予定です。

結びとなりますが、甲府三大祭りの一つに数えられる正ノ木祭の賑わいは、献木祭にてこい願う「地域の振興」そのものです。今後とも、本例祭が盛大に開催されるとともに、稲積神社はじめ関係者の皆様益々の発展を遂げられますことを祈念申し上げます。



稲荷社前に植樹を行う当所進藤会頭(令和5年)



植樹の際は拝殿にて神事も行う。例年多くの議員事業所が参加。

# 恵方参りに参加して

山梨県議員 和 寺田 義彦

毎年恒例の稲積神社主催の「恵方参り」のお誘いを頂きました。恵方参りとは御神徳を戴くためにその年の恵方（今年は東北東）にある神社を参拝することです。

本年は年始より能登半島大地震・羽田空港での痛ましい事故も起きてしまいました。そうであるならば今年の平安・息災を祈願するには、とても意味のある恵方参りだと感じ参加させて頂きました。

さて、今年の稲積神社恵方参りは、二月十八日、十九日に催行されました。二月にしては暖かく、まさに旅日和でありました。

初日は、前橋市内で三十三階建て、高さ一五三mという群馬県庁舎と、臨江閣という明治期に建築された国の重要文化財を見学し、早春の穏やかな昼下がりを通りました。

夕方、伊香保温泉に到着。温泉は素晴らしく、旅や日頃の疲れを十分に癒してくれました。小尾武総代会長様のご挨拶で始まった夜の懇親会は、美味しなお酒と料理に舌鼓を打ちながら、多くの方々を親睦を深める機会となりました。

翌日の午前は、小江戸川越を散策。午後は、埼玉県南東部、日高市にある由緒ある高麗神社を正式参拝した後、皆



高麗神社にて正式参拝

さん無事に帰甲されました。今回、多くの皆さんと楽しく充実した二日間を共有させて頂きました。災害、戦争、感染症、物価高など、まだまだ世の中には憂うべき問題、課題が山積しております。しかし、人事を尽くし、御神徳を頂戴することで、必ずや明るい未来に繋がってゆくものと信じております。そして、人事を尽くすためには、多くの仲間と共に前を向いて歩んでゆかなければなりません。世代も立場も違えども、一緒に語らい笑い合える仲間の尊さを再認識できた、それこそが恵方参りで頂戴した最高の御神徳であったのではないかと思います。

# 靖國神社参拝旅行に参加して

常若会 峯岸 一郎

三月二十六日、神道政治連盟山梨県本部主催「靖國神社正式参拝」並びに国会議事堂への見学会に参加致しました。当日は雨の中、山梨県内より関係者二七〇名（内稲積神社十二名）がバス七台で談合坂サービスエリアを七時三十分に出発し、予定時刻の九時三十分は無事到着しました。本殿の厳かな佇まいの中で、正式参拝を滞りなく行うことができました。

靖國神社は明治二年（一八六九）六月二十九日、明治天皇の思召し召しよって建てられた招魂社がはじまりです。明治七年（一八七四）一月二十七日、明治天皇が初めて招魂社に御親拝の折にお詠みになられた「我國の為をつくせる人々の名もむさし野にとむる玉かき」の御製からも知ることができ、御製からも知ること、国家のために尊い命を捧げられた人々の御霊を慰め、その業績を永く後世に伝えることを目的に創建された神社です。合祀されているのは明治維新以降の殉国者でよく知られている偉人の吉田松陰、坂本龍馬、中岡慎太郎、また大東亜戦争での殉国者が大きく目立つところであり、新たな戦死者が出るたびに「祭神」に加える合祀の手続きが取られることになっており、現在合祀

者の総数は二百四十六万人強となっております。

靖國神社には本殿前に社頭揭示「英霊の言乃葉」がございます。今月は本堂に有難いことに、山梨県南巨摩出身の海軍上等水兵市川博久命（昭和十九年七月八日マリアナ諸島方面にて戦死）の「故郷に想ひを馳せて」が掲示されました。私たちが迎えていただいたような涙雨で心清くなった感じが致しました。「拜啓、久しく御無沙汰して居りました。父上母上様は、其の後お変わりありませんか、お伺い致します。私も父上母上様の陰ながらの御援助により無事第一線に在りて、小さくは家門の名譽、大きくは祖国日本の為に元気に奮闘活躍させて頂いて居ります故御休心下さい。寒風吹きささぶ小川の里も自然の美しささ彩りつつある事と推察致しております。中略・なほ時候の変わり目は、体に無理を来す故、父上母上様には特に特に気を付けてくださる様、切に切に望んで居ります。では又次便に。父上母上様へ」御両親への感謝の心と、心から心を後世の良き精神と優り残さなくてはならないと思っていたのではないのでしょうか。多くの御霊の御前に対し

て英霊の皆様方が希望として残していただいたこの日本という国、また日本人としての生き方とは何かと自らに問いかけながらお参りさせて頂いたできました。

靖國神社を後にして、明治記念館で昼食を済ませ、午後から国会議事堂参議院議員会場を見学させて頂きました。地元国会議員の皆様からお忙しき審議の途中にご挨拶いただき、現在騒がれている政治問題に関して真摯に取り組みをお伝えいただきました。立憲政治の中心を緊張感のある中、無事見学終了し帰路につきました。国家の中核である東京。ここには多くの近代史また政治の歴史が沢山ございます。本日、靖國神社正式参拝と国会議事堂という重要な要素をもった聖域を参拝見学できたこと、神道政治連盟山梨県本部役員の皆様、稲積神社根津宮司さんはじめ関係者の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



遊就館にて戦闘機零戦の前で

# 令和六年の新年を迎え

## 正月行事に奉仕して

根津 佳 歩

今年で二年目となる巫女ご奉仕は、昨年よりも落ちついてお努めすることが出来たと思います。巫女の装束に身を包むととても気持ちが引きままります。多くの参拝者が気持ち良く、すがすがしくお参りして頂けるように努めなければいけないと思うと、大変緊張しますが、大学生の巫女の先輩方がサポートして下さり、安心してご奉仕を努めることができました。巫女のご奉仕で私が一番気をつけていることは、立ち振る舞いや言



新年を迎えた神札所で頒布する巫女と参拝者

葉遣いです。常に姿勢良く笑顔で、謙虚な気持ちを忘れないうことを意識し、参拝者の方々が気持ち良くお参りできるようにご奉仕しました。巫女の仕事は、ご神殿でご祈願する神主さんのお手伝いをする業務とお札所でお守りを頒布する仕事があります。神殿ではご祈願を受ける方に神主さんが今からすることをお知らせし、ご拝礼玉串をご案内します。使い慣れない言葉で案内する為かすぐく緊張します。皆さんが良い年を過ごせるようお手伝い出来てとてもうれしい思いです。お札所ではたくさんのお守りが並んでおり、おとしてしまうと、神主さんにお祓いしていただくかないといけません。なので、お守りをまちがえないことや、おとさないよう注意すること、使い慣れない言葉でのご案内など、考えなければならぬことが大変でした。しかし、参拝しに来ている参拝者に笑顔で新年をお迎えしてもらえらるるに、心をこめて笑顔で対応することを心がけ

ました。今回巫女を経験し、普段とは違う言葉遣いや年齢時の神社の雰囲気や味わせていただくことが出来ました。また参拝しに来て下さった方々からありがとうという言葉をたくさんいただき、それを糧に頑張ることができました。

## 還暦（年男）を迎えて思うこと

常若会 小林 隆 広

「あれ？もう六十歳!? 後何年生きられるの?」  
還暦（正確にはまだ五十九歳ですが）を迎えて最初に感じた感想です。

人生五十年の江戸時代なら村の長老ですが、人生一〇〇年時代の今、還暦のおじさんなんてまだまだヒョッコ。二十代の時と比べると体力も落ち、それなりに持病もあり立派な大人ですが、どの会に行っても若手扱い。ありがたいことです。

還暦に対する高校生の頃のイメージは「ヨボヨボのおじいさん」  
元気なうちに昇天したいなあ、と思っていたので、高校時代に思い描いた人生設計は「五十八歳の誕生日の朝、起きたら死んでる!」

した。稲積神社でご奉仕させていただきます、たくさんのごことを学ばせていただくことができました。来年も機会があればぜひご奉仕させていただきます。ありがとうございました。



節分際の神事でお祓を受ける執筆者

でも、意外と元気な五十七歳を過ぎ、周囲の先輩達は六十過ぎても若いし元気過ぎるので、人生に未練がでたのか、五十八歳の誕生日の前日に箱根の大涌谷で黒たまご（ひとつ食べると寿命が七年延びるらしい）を五個食べて

九十二歳十一月と三六四日まで生きられることになりました。  
九十二歳って中途半端？だから、せっかくだから一〇〇歳まで生きたいなあ。  
でも黒たまごをもう一個食べても九十九歳十一月と三六四日でもちよつと足りない。  
さらにもう一個食べちゃうと一〇六歳十一月と三六四日。長すぎる…  
くだらない事で日々悩む還暦間近の年男でした。  
何はともあれ、私と関わっていた方々、迷惑でしようがもう少しお付き合いくださいませ。  
さて、これまでの六十年を真面目に振り返ると、失敗や挫折、分岐点での判断ミスも多々あったことは否めませんが、その事があまり記憶にないのは樂觀的な性格のためだからでしょうか。（人はそれを行き当たりばつたりとも言）いや、その性格のためだけにではなく、人生の中で出会った多くの人々が私の支えとなり、共に喜びや悲しみを分かち合ってきたからこそだとも思います。これからは絆を大切に、助け合いながら歩んでいけば有意義な人生を送ることができるのではないかと感じていきます。

還暦を迎え、人生の目標や夢を持ち続けることも重要だと感じています。還暦を迎えても新たな挑戦をすることや夢を追いかけることは決して遅すぎることはありません。むしろ、経験を生かしてより充実した人生を送るために、積極的に新しいことに挑戦することが大切です。

と書きながら生憎はつきりとした目標も夢も持ち合わせていないので、古希（七十歳）までには夢を見つけないことを目標にします。

最後に、「感謝の気持ちを忘れずに生きることが大切だ」と思います。「人生にはたくさんさんの恵みがあり、それらに感謝することで心が豊かになります。家族や友人、そして過去に出会ったすべての人々に感謝し、その恩返しをすることが、幸せな老後を迎える秘訣ではないでしょうか。」

還暦を迎えて思うことはたくさんありますが、周囲との絆、夢や目標の追求、そして感謝の気持ちを大切にすることが、充実した人生を送るためには大切だと感じます。これからもこれらを大切に、九十九歳十一月と三六四日に向けて前向きに歩んでいきたいと思えます。

と感じた節分祭での豆まきでした。

## 年中行事 斎行

### 節分祭



二月三日に斎行された。この日が節変わりとなり令和六年甲辰三碧木星の新たな年を迎えました。立春大吉の御札を祀るのもこの日です。

### 針供養祭



毎年事始めの日に斎行されています。一年間堅い物を縫う針を柔らかいこんにやくに刺し、一年間の感謝を込め休んでいただく神事です。

### 初午祭

二月十二日の初午の日に斎行された。和銅四年二月の初午の日に京都稲荷山に稲荷の神が降臨された日として、大神の廣大無辺なるご神威を奉るお祭。

### 祈年祭

二月十七日に斎行された。祈年祭は五穀豊穡を祈る神事で、皇室、伊勢神宮を始め全国の神社で斎行されています。

### 天満天神社例祭



「菅原道真」をお祀りしている学問の神様であります。受験時期になると多くの参拝の方が合格祈願でお参りに来られます。この日も学童が参列しました。

### 猿田彦社例祭



交通安全祓所に鎮座しております当社が猿田彦の大神様は交通安全、道開き、人生の道案内の神として祀られています。

### 甲子社例祭



出雲大社よりの「大國主大神の御分神霊」がお祀りされています。六十日に一度回ってきます甲子の日が神事日です。新たに息吹を授かる日です。生活するにあたり必要な様々な縁をいただきます。

### 熊野社例祭



三月二十六日に斎行された。この日に島根県松江市に鎮座する熊野大社から御分神霊をお受けした由緒ある日です。熊野大社は出雲大社の息吹を司る御縁あるお社です。



### 夏越大祓

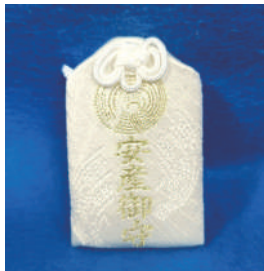
六月三十日、今年半年間の罪穢れを祓へ清める夏越大祓式が十六時より斎行されます。人は生かされている証として、残食したり、一言言葉が足りず誤解を生じることがあります。この様な事の反省をするのも大祓式です。



前半の半年を祓へ清め、後半の半年がより良い年になるように、茅の輪くぐり神事に参列しましょう。どなたでもご参列いただけます。

### 令和6年 戌（いぬ）の日カレンダー

5月	10日(金)	赤口	22日(水)	赤口		
6月	3日(月)	赤口	15日(土)	友引	27日(木)	友引
7月	9日(火)	先負	21日(日)	先負		
8月	2日(金)	先負	14日(水)	大安	26日(月)	大安
9月	7日(土)	赤口	19日(木)	赤口		
10月	1日(火)	赤口	13日(日)	先勝	26日(金)	先勝
11月	6日(水)	先負	18日(月)	先負	30日(土)	先負
12月	12日(木)	仏滅	24日(火)	仏滅		



安産守

### 安産祈願の由来

安産祈願は神様に参詣し懐妊の報告と無事出産を祈願する行事です。

戌の日が選ばれるのは犬が安産であったため犬にあやかって戌の日に祈願するようになりまし。近年はご都合の良い日を吉日と定めお参りなさる方も多くなりました。

### 星除祈願

本年の生まれ年が四緑木星、八白土星、一白水星、三碧木星の方は星除祈願をお受け下さい。



星除守

### 厄除祈願

運勢学でみる厄年の大厄は衰退期の衰退運に回座する年を言います。男性は昭和五十八年生、女性は平成四十年生の方です。男性の昭和三十九年生、平成十二年生は生気興隆の為に生気が増大するので注意の厄。女性の昭和六十三年生・平成十八年生は八方ふさがりの注意の厄です。以上の方は厄除祈願をお受け下さい。



厄除守

## 稲積神社甲府伊勢講千社詣での集い

新穀感謝祭 神宮参拝：豊受大神宮別宮“伊雑宮”参拝

- ◆旅行期日：2024年10月27日（日）～10月28日（月）
- ◆旅行代金：39,500円（お一人様旅行代金）
- ◆募集人員：40名
- ◆ご利用予定ホテル：鳥羽温泉 戸田家

月日曜	行程
10/27 (日)	<p>中部横断～新東名高速～東名阪路 ※正式参拝&lt;御神楽&gt;</p> <p>甲府市内====双葉SIC====伊勢IC====豊受大神宮（外宮）</p> <p>*正式参拝 直会弁当</p> <p>====皇大神宮（内宮）====神宮会館（昼食）……おかげ横丁散策</p> <p>====鳥羽温泉（宿泊）</p>
10/28 (月)	<p>ホテル====皇大神宮別宮 伊雑宮====ドリームオーシャン（すき焼きor焼肉の昼食）</p> <p>西名阪～新東名～中部横断道</p> <p>====松坂IC====双葉SIC====甲府市内</p>